

THE KANSAI UNIVERSITY BULLETIN

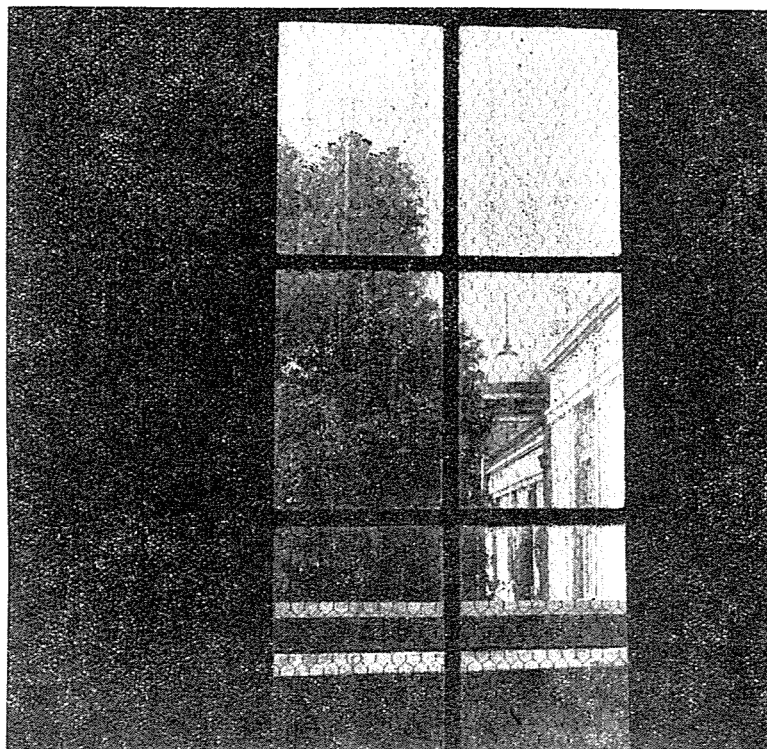
Osaka, February 15th, 1953. No. 256

關西大學學報

第 2 5 6 号

昭和 28 年 2 月

昭和二十六年十月十五日第三種郵便物認可
復刊第二六号(通卷第二五六号)
昭和二十八年二月十五日發行(每月一回十五日發行)



關西大學學報局

Deutsch の起源と意義に関する

新しい見解に就いて

福本喜之助

Deutsch と云ふ概念は現代のドイツ語史の研究で、論争の中心となつてゐる重要な問題の一つであつて、その語形や本来の意義に關しては、種々雑多な見解が述べられてゐる。勿論この概念の外的、内的發達に就いては、未だ最後のな解決を見るには至らないのであるが、ドイツ語学の新しい言語觀の一端を窺ふ意味で、有力と考へられる新しい見解を紹介し、これによつて、この概念とドイツ語の史的發達との時間的な關係や、ドイツ民族の思惟・行動を制約する國語の力と Deutsch という概念の形成との内的關係にも觸れてみることにしたい。

さて従来の語史にみられる見解を總括して、それらの一致点を要約すると大体次のようになつてゐる。即ち Karst der Grobe (742-814) が全ドイツ民族を統一して、その支配下に置いた時に、その領土に定住してゐたゲルマン民族の大部分がフランケン國のローマンス民族と分離して、政治的に獨立したので、当時の西民族は言語や政治よりみて、内面的には著しい對立を示してゐたのであつた

が、併しそれにも拘らず、外面的には統一ある一國家の觀を呈してゐたのであつた。それでフランケン、シュヴァーベン、ザクセン等の諸族も、ゲルマン以外の民族をも多数に包括する一世界的國家に從屬するものと呼ばれてゐたのであるが、Ludwig der Deutsche (810-876) 以後には、ゲルマン系の民族のみを包括する東カロリンガー朝が出現するに至つた。これによつて諸民族の共屬的感情は益々強化されて、これを言語的に表現するため、これら全民族を總括する名稱の必要が生じたのである。當時既にラテン語の文書にこれら民族の言語を總括して、その特質を示す語が現れてゐたので、これがために、問題は頗る簡単に解決された。即ち七八六年以來ラテン語の文獻に副詞 theodisce がはじめて現れ、少し後になつて、學術語としてのラテン語に對して、ゲルマン俗語の名稱として theodisca lingua が用ひられたのである。この最古の例証はアングルザクセン語をさすのであるが、多くの場合には、大陸に居住したゲルマン民族の言語を意

味するものとされてゐる。この theodiscus という形容詞は Volk を意味するチルマン語・例へば、チール語 thind'a、アングルザクセン語 theod 古代高地ドイツ語 theota, diot'a) (これに就いては現代ドイツの人名や地名 Dietmar, Dittmar, Dimer, Demer, Dierich, Diethald, Treck; Dithmarschen, Dittfurth 参照) 等より派生したもので、以前より一般に、これはラテン語 vulgare の訳語で、ラテン語を話す有識階級に對して、教養のない一般大衆の言語をいふことになつてゐた。

これに對して H. Sperber (Geschichte der deutschen Sprache, 1926) は、「本来自由民の總體を表すゲルマン語 *thindo が輕蔑的な副意義を有する概念の表示に用ひられた」ことに疑念を抱いて、次のような見解を述べてゐる。即ち、それによれば、この Deutsch という語が中世ラテン語に輸入されたのは明らかにキリスト教を信奉するゲルマン民族によるのであつて、最も早くよりキリスト教に附依したゲルマン民族、例へばゴート族やアングルザクセン族の言葉では、「異民族又は一言語を表すのではなく、「異教的」(theidisch) を意味することになる。Sperber はこの事実が最古の語義を問題にする場合には極めて重要であると説いてゐる。詳しく言へば、ゲルマン語の名詞 thindo の複数はゴート語や

第二五六號

目次

Deutsch の起源と意義に

關する新しい見解について

……福本喜之助(1)

八鳥教授を偲ぶ……石田 憲次(6)

学内報……………(7)

校友……………(8)

象の話……………広瀬 檢三(9)

学生……………(11)

考え物新題 其の一…一鷄学人(13)

編集後記……………(14)

マンゲルザクセン語で聖書のギリシヤ語 *ἐθνη*, ユラタン語 *gentes* の訳語として、異教の民族を表すに用ひられてゐるのであるから、この *theodiscus* という語が先づ中世ラテン語 *gentilis=heidnisch* の訳語として發生し、マンゲルザクセンの傳道師より、まだキリスト教を知らなかつたゲルマン民族に用ひられたと仮定されたのである。又この *theodiscus* が

はじめて現れた文書を作成したのはイタリー人で、このイタリー人が本来ラテン語に対して、ドイツの俗語を表すために造られた語を、その当時にはドイツ語に類似してゐたマンゲルザクセン語に転用したとも考へられてゐる。なほ (Spehr) の「異教説」は Moser (Deutsche Sprachgeschichte, 1950) を支持してゐる (p. 260)。

次に Kluge (Deutsche Sprachgeschichte 1920) の *Deutsch* の概念と意義に就いて検討してゐるが、例へば Walafrid Strabo が、キート人はキリスト教に歸依した當時には、*„nostrum, i. e. theodiscum sermonem“* を語じたこと述べてゐるように、少くとも九世紀に於てはドイツ人がこれを用ひた場合でも、狭義の一國語としてのドイツ語ではなく (Grimm と同様) 廣義に解して、同系のゲルマン諸語を包括するものと見做してゐる。(これに就いては、Grimm, Geschichte der deutschen Sprache, 1848, Deutsche Grammatik, 1819) 参照)。

更に *Deutsch* の意義の發達に就いて、A. Bach (Geschichte der deutschen Sprache, 1938, 1949) と Karl der Große の宮廷牧師 Wigbod の宗教會議に關する報告(786年) に於て *theodisce* をはじめて Kluge, Etymologisches Wörterbuch より、種々の例証を挙げてゐるが、要するに、この名称が民族や國家にも用ひられたのは九世紀の末、或は十世紀頃であるとみてゐるようである。これまで述べてきたところは Grimm より Bach に至る諸説を綜合し、要約したものであるが、この *Deutsch* という名の發生は想像以上に複雑な事情を有するものようである。この問題に關する多くの研究成果に關しては、Leo Weisgerber 教授の近著 (Der Sinn des Wortes Deutsch, 1949) に詳述されてゐるが、以下では主として同教授の新學說を中心として (Die Entdeckung der Muttersprache im europäischen Denken, 1948, Die geschichtliche Kraft der deutschen Sprache, 1950) この問題の解明を試みてみることにしよう。

こゝで先づ我々の目を惹くことは八世紀の文獻に現れた語が新しい言葉の名稱、しかも言葉を表す形容詞(又は副詞)であつて、それ以前又はそれと同時に、その言葉が語す民族の名が知られてゐな

いことである。その國語によつて發達して、生じた民族名はそれよりも以後の時代に於て漸く一般に認められたといふ珍しい事實である。これはヨーロッパで他にみられない現象であるから、ドイツ民族の歴史はその國語の發見と同時に同じまるとも言へるのである。普通の順序より言へば、國名や種族名より民族名や國語名が生れるもので、例へば古代の國名 Spanien, Italien より Spanier, Italiener が生じ、次に國語名 *spanisch, italienisch* が由來するか、或は古く種族名 *Franken, Angeln* より *Franzosen, Engländer* が

その國語名 *französisch, englisch* と共に發生した。Deutsch の場合はこれが全く反対であつて、國語名 *Deutsch* がその出發点となり、これより次に民族名 *Deutsche* と國名 *Deutschland* が發達したのである。これによつてドイツ人はその言語によつて名づけられたヨーロッパ唯一の民族であると言ふ歴史的な事實が明らかになる。これは全く特殊な意義を有する事柄であつて、ドイツ人とその他の國語との基本的な關係の重要な興味深い問題が生じてくる。

先づこの事態を解明するためには、次の事實を考慮に入れなければならない。即ち、それは九世紀以前には民族としてのドイツ人の名は知られてゐないこと、この新しい民族名は長い發達の結果として現れたこと、更にこの事態よりみて、共通の國語に対する自覺的意識が特に重要な役割を演じてゐるといふ事實である。従つて先づ國語名の發生よりはじめ、この國語が民族的獨立の意識に対して有する意義をみて行くことにしよう。

既に述べたように、*Deutsch* という名の發生は決して簡単なものではなく、これには幾世紀の期間を要し、種々の地域と更に又異つた言語が関與してゐる。その發達は言ふまでもなく有史以前にはじまるものであるが、精密な語史的研究によつて、確實な成果が得られるのである。即ち *Deutsch* の語源は生きた國語によつてあり、その出發点となるのは形容詞のゲルマン原語の **heidiskaz* と想定され、しかも、この原語の成分は基語 **heudo=Stamm, Volk* とその派生綴 *iska=„gehörig“*、即ち *„zum Stamm gehörig“* とよつて明らかになれてゐる。併しながら、このように基語の意味が明瞭であると同時に、この問題の解明に非常な困難が生じてくる。即ち、*zum Stamm gehörig* と *Deutsch* との間になんか關係があるか、又この形容詞がどうして固有名に転化したか、といふ問題が起るのである。そこでこれに対して、あらゆる方法で両者の関連に就いての説明を試みられた。即ち、それが偶然であるとか、贗訳であるとか、外国からの影響、又は誤解に基づくものであると主張されるに至つたのである。それであら

ゆる確実な支持点を厳密に観察した結果、漸くこの問題を解明する道が明らかになされたのであるが、これには次のような主要な発達段階が認められる。

(一) *theudiskaz は welsch の古語 *walhskaz より、その反対概念として生じたもので、この walhskaz はケルトの種族名 Volcae より出て、民族移動時代にはゲルマン民族の定住した地域にいたる異種のローマンス民族を総括する概念となつたものである。

(二) この walhsk に対立する theudisk は自民族特有の言語、その他の価値、文化財を意味するものであつた。これが古代フランス語 *leis* や古代オランダ語 *dietsch* と一致する点よりみて、時代は七世紀より八世紀頃で、場所は西フランク王国であると想定される。

(三) このように言語や民族が混淆する西フランク王国の領域で、形容詞 *theudisk* が言語より民族の名に発達したものである。fränkisch は国家的概念になつたが、これは Germanisch や Romanisch を包括するものである。その *das Germanisch Fränkische* を強調しようとする時は、*zur eigenen theudo gehörig*、*angestammt* の特殊な意味で、*theudisk* を用ひることにした。この用法で *theudisk* は遂に民族を表す形容詞となつたが、これは言語、次に国土、人、風習等の民族特有の価値の特質を示すため

に、ゲルマン系のフランク人によつて用ひられたもので、この状態は七〇〇年頃と推定されてゐる。

(四) この *theudisk* は主として西フランク王国で用ひられた後で、*Karl der Große* の官廷語としての中世ラテン語に引き継がれることになり、七八六年以来形容詞 *theodiscus* が現れたのであるが、これは専ら言葉を表す *theodisca lingua* の形式で用ひられたのであつた。例へば、その年に、上述のように、マン

ゲルザクセンの宗教会議で決議文がラテン語やドイツ語で (*Tam latine quam theodisce*) 読み上げられた事実が報告され、八〇一年には *Karl der Große* が許可なくして軍を去つた者に罪を問ふた (*quod theodisca lingua dicimus herisiz (Heeresbruch)*) と傳へられてゐる。

次に八二五年には *Bischof Frechulf von Lisieux* が、ローマ人やフランク人を *nationes Theodiscae* と呼び、八四〇年には前述の *Wahfrid Strabo* が *Theodiscum sermonem* の外に、*Theotisci* と *theodiscus* を用ひ、八四二年には *Straburger Eide* に関する *Nihard* の報告の中に、フランク王国の分割に際して、*Theodisca* や *Romana* が云々されてゐる。更に又八六〇年頃の僧 *Otrid* の *Evangelienharmonie* にも、ラテン語の序文で、*theodisce* が用ひられてゐるようである。このように中世ラテン語に

theodiscus といふ語を用ひるに至つたのは明らかに、*Karl der Große* の文化政策によるものであつて、これによつて大帝は国家的権力で統合されたゲルマン人の部分に、言語といふ明確な標識によつて、彼等の内的共属性を明示しようとしたのであつた。

(五) 中世ラテン語の *theodiscus* がはじめて現れてから、約百年の後、即ち八八〇年頃より、古典ラテン語でよく知られてゐた語形 *teutonicus* が、*Teutoni* と共に用ひられるようになった。これはもと *Gallicus* と同意義の語であつたが、次第に *theodiscus* に接近して、両者は後に全く同一の概念として用ひられるに至つた。八八〇年頃の例証には、*teutonica vel theodisca lingua* と並用されたように、*teutonicus* は次第に優勢となつて、*theodiscus* を押し、後者は前者の影響によつて、ローマンス語を話すフランク人に対し、ローマンス化されてゐないフランク人の名称として、遂に制限された *deutsch* の意義を得たとも考へられてゐる。こゝにせよ、学者の用ひた古典的な *teutonicus* によつて新しい *theodiscus* に、歴史的な深みを與へようとしたものらしく、これがために、前者は遂に後者を駆逐して、全中世を通じて、*teutonicus* が *Deutsch* の公的な用語となつて至つたのである。

(六) これらの語形の影響を受けて発達してきたのが古代高地ドイツ語の *diutisk* であつた。恐らくこの語形は言語境界の周辺部で、西フランク語の *theudiscus* と同様に、古いものであつたと考へられるが、勿論その使用は純ゲルマンの領域で、最初は地域的にも、内容的にも限定されてゐたようである。その後にはこれは次第に廣く用ひられて、フランク世界の周辺部より、ドイツ国内に進出し、九世紀の後半には確実な地盤を獲得するに至つた。従つて *theodiscus* が徐々に後退して、一〇五〇年までに全く影をひそめるようになってから、これが唯一のものとなつて、その発達を続けたのである。

(七) このように、*theudisk*、*theodiscus*、*teutonicus* の三者を基礎として、古代高地ドイツ語の *diutisk* は成長したもので、最初はやはり *diutiskun* (ドイツ語で) といふような形式で言葉の形容詞として用ひられたのであつたが、九世紀の中には、次第に民族を表す形容詞に発達したものと考へられる。例へば *Notker der Deutsche* (955-1022) が *diutisc* の語を用ひたように、(Notker 前後の文献には始音の *ch* や中間音の *ch* もみられる)、これの最古の例証が十世紀、即ち *theodiscus* が出現して、二百年の後、*Otto* 朝の時代にはじめてみられるのはあるが、*theodiscus* との相互的影響によつて、九世紀には既に、*deutsche*

Land, deutsche Menschen, 最後は Deutsch を話す人の意味に於ける Deutsche にも用ひられたことが実証されてゐる。

(八)以上述べてきたところによつて、九〇〇年頃には完成された民族概念としての deutsch が発生したことになる。従つて言語といふ標識によつて生じ、言語の共有性に限定された *deutsch* は他の民族的な価値にも、その特質を表示するのに極めて適してゐることが判明したので、遂にその内面よりドイツ的特質の全範圍を意識するに至つたのである。十一世紀の *Annolied* に使ひつゝゐるような *deutschu lute, in duteschemi lande* といふ考へ方は既に九〇〇年頃の時代にもあつて、個々の種族の考へ方を超越してゐたので、*Franken, Sachsen, Bayern, Alamannen, Thüringen, Friesen* の人々が *Karl* 王朝の崩壊後も自ら統一あるドイツ民族であることを自覚して、ドイツ民族共通の歴史の道を歩んだのであつた。

（語形に就いて言へば、中間音の *d* と *t* は方言によつて異なるもので、始音では *th* と *d* は一致してゐる。この *t* は *theodiscus* や *teutoniscus* の影響によつて生じたりして、中世高地ドイツ語では *diutisch* が *diutisch* と共に並用されてゐる。*d* の形式は低地ドイツに多く、上部ドイツでは *t* が *Goethe* 時代に至るまで好んで用ひられた。Klopstock の時代には、ドイツ人の祖宗として *Teut* といふゲルマンの神を考へ出したほどであつたと言はれてゐる。十八世紀に至つて、*Gottsched* と *Adelung* は低地ドイツの人々として親しみのある始音の *d* を採用し、これを語源的に正しいものと認めたので、これが今日の標準語で唯一の形となつたのである。）

上に挙げた発達過程をみて、我々にとつて、最も重要な問題となるのは、この過程が言語本来の機能を指示してゐることである。theudisk, theodiscus, diutisk の三形が、いづれも共通の線を示してゐること、又これらの発達段階がそれぞれ特殊な条件の下にありながらも、同一の効力を有する統一の結果に到達したことは容易に認められる。これらの場合に、言語が関與した程度や、各時代の観点が多少異つてゐても、他の問題は常に必然的にこの國語を中心点としたのであつた。本来は、*zum Stamm gehörig* を意味した概念語の theudisk が遂に一集團と密接な關係を有する名称になつた原因は七〇〇年頃の西フランクン國に認められる。当時大部分ゲルマン系であつた東部の人々は西部が益々ローマン化されて行くのを見て、自らの危険を感じた状態にあつて、はじめ、この語が発生したのである。これは紀元前三世紀頃に例証されてゐる *Lingua Latina* の場合と

全く同様で、古代のローマ民族は自國の歴史的価値が異種の民族によつて脅された時に、これを防止するために、古い歴史と傳統をもつた *Latinus* の國語を自らの指導的理念として、自らの結束を固めたのであつた。従つて異種の *Wahiskaz* に對する自らの theudisk の關係は明らかに對立、或は緊張状態を表すものであつたが、兩者の中で、古い方は言ふまでもなく、*Wahiskaz* であつた。この形容詞は西フランクンではよく用ひられ、國內在住のローマンス族の土地や人物、風俗、習慣、その他の特性を示すことになり、その名詞はゲルマン人の間では、南西の隣人といふ概念にまで發達した。勿論これに對立する theudisk もその言語のみには限られてゐなかつたが、言語的境界を示す標語として、その言語が重要な役割を演じたことは当然である。要するにこの特殊な歴史的状況にあつて、ゲルマン系のフランクン人が異種の価値に、自らのものを對立させる機会が生じたわけであつて、このように一民族が他の民族に對して、自らの特性を意識させることは、史上他にも多くその実例が認められる。例へば、古代ギリシヤ人が異つた言語を話す他の民族を自らに對立させて、その言葉が分らないものとして、これを *barbaros* (*stammfremd*) と呼び、これを *barbaros* (*stammfremd*) と呼び、これを更に異國外人、最後に今日の *Barbar* にまで發達した事実をみても明らかであるが、この *Barbar* はギリシヤ精神、ギリシヤ主義を自覚する發達過程に於ける中間的段階ともみることができらう。これと同じような意味で、西フランクンでも、theudisk といふ語がはじめ、造られた時も、他の鏡に自らを照らして自覚し、自らに固有の価値を、フランクンの領土に住む、ローマン人に誇示しようとしたわけである。従つて *Th. Frings* (*Das Wort Deutsch, 1941*) がこの theudisk といふ語を「誇りをもつた言葉」(*ein stolzes Wort*) と呼んだことも当然であると言へらう。

これらの自覚した民族固有の価値がどんな作用を有したか、これを最もよく示すものは、*Karl der Große* の採つた政策であつた。即ち、大帝は自らの目的を達するために、大陸の全ゲルマン民族を國內に集め、精神的に進むべき道を示したのである。この場合に大帝にとつては、生來の言語 *theodisca lingua* が二重の意味で重要であつた。第一に、この領域を限定する標識となり、次にそれを統一する意味の理想となつたからである。*Karl der Große* の國語に對する關心は一般によく知られてゐるが、これはその時代の必要より、その後の文化的發展の基礎を築こうとした意圖より來るものとみれば容易に理解される。この場合

に、最も重大な条件はこれら各種族に内的共属の意識を喚起することであつた。この意図に用ひられたものが、新しく官廷の用語に採り入れられた theodiscus であつて、言はゞ西フランク王国の民族的な出来事で認められたものが、この時代では、言語といふ特殊な領域で、それに含まれた使命を意識させる重要な手段となつたわけである。この意味で、theodiscus は、個々の種族に共通のものを示し、言語の方面で、対等の協力へと導くためには、全く適した言葉であつたと言へるのである。

この考へが非常に有益であつたことは、次に古代高地ドイツ語 *diutisk* の発達によつて示されてゐる。先づこの *diutisk* は *theudisk* や *theodiscus* によつて、言語の傳統的、社会的価値を九世紀の人々の意識に確保することができた。併しながらいこの *diutisk* が *theodiscus* のように、単に言葉の形容詞に止らず、更に完全な民族名に発達したのであるが、これは言語社会に結びついたその他の価値、言語の共通性に含まれてゐる協力の可能性を認識したからであつて、この可能性を利用し盡してこそ、一族の内的価値が生じてくるのである。これらのすべては九〇〇年頃の時代に、明瞭に意識されてゐたのであつて、これによつて、これまで分裂してゐた各種族が内的な統一に達し、その統一の標識として、宿命的に

結びついた、民族的な価値を有する名、即ち、ドイツ語といふ名を選んだのであつた。

こゝで筆者が重ねて強調したいのは、國語の基本的な機能、換言すれば、民族固有の言語が有する価値と、その社会を形成する力、即ち、ギリシヤ的な言語の認識価値やローマ的な傳統価値と並んで純ゲルマン的、ドイツ的な社会的(集團形成)の価値を確認することである。言語名が民族名に進展して行くのは言語団体の価値を認めるからであつて、この意味で *Deutsch* といふ語は、宗教改革時代にはじめて高地ドイツ語に現れた概念 *Muttersprache* (即ち、民族を育てる *Mutter- Sprach*) の高い段階を含むものとも言へるのである。

最後に *Deutsch* といふ理念が発生する時に規準となつた重要な原則にも触れておきたい。この原則がどんなものであるかは、*Deutsch* といふ語の語源の発達によつて認めることができる。即ち、生来の価値といふ思想より出発し、ドイツ語といふ理念に導かれて、それより、ドイツの人と國とを理解するのである。これは全く「民族世界の思想的構成に於ける新しい理念の出現」とも言ふべきであつて、ドイツ人が言語団体として、自らを意識したことは極めて重大な意義を有する事実である。凡そ民族の名に現れた指導的理念には三種類あるが今これを比

較すると、それより生じてくる使命はいづれも異つてゐる。先づスペイン、イタリアの例にみたように、國名より民族名が生ずる場合であるが、これは自然的な予備条件(即ち、変ることのない空間内の発達、人間によつて造られたのではない)の範囲を充塞することを指示するに過ぎない。その第二は、フランクやアンゲルンのように種族名が民族名となる場合であるが、これは優勢な地位や支配権を確保して、この状態を変化させるような危険を防止せよとの永久的な要求を意味することになる。第三は精神的価値を一族の指導的理念とするもので、これらはこの理想を展開させ、この基礎によつて全力を盡して、生活を形成して行く義務を課するものである。これによつて今 *Deutsch* といふ理念の特質を示すとすれば、これを「民族的秩序の基礎」として、精神的なものを承認すること」と言はなければならぬ。従つてドイツ人はその精神的価値を自らの生活の象徴とする

るものであつて、長い民族の歴史の中で、これらの人々が度々自らを意識した時に、民族共有の標識とするほどに強固な拘束力を、共通の言語に認めたとすれば、これは國語といふ精神的な形成力の中に、彼等の「歴史的需求の根柢」を見出したことを意味するものに外ならない。この点よりみて、*Deutsch* といふ理念がドイツ語に導かれて、ドイツ人の自己認識にほじまつたと云ふことは、全く「世界的な意義を有する事実」であり、ドイツ語がドイツ人の史的発展に及した著しい影響を指示するものと言へるのである。

(この拙稿は末刊の拙著「近世ドイツ文語史序説」を基礎とし、主として Weisgerber, その他 Frings, Moser, Lersch 各教授の著書を参照した。なほ遠隔の地より常に筆者を指導激励して下さい。ボン大学 Weisgerber 教授に深謝の意を表するものである。)(文学部教授)

校友名簿發刊に就いて

校友各位に告ぐ
校友名簿は、其の發刊が企画以来、事務幅狭の爲非常に遅延致しまして、校友各位に多々御不便をおかけしましたが、愈々二月末、發刊の運びとなりました。就きましては校友相互の消息を知る意味に於いて、左記御覧の上是非、此際御申込み下さる様御願申上げます。

昭和二十八年二月 大阪市大淀区長柄中通二丁目十二番地 関西大学(校友課取扱)

型、B列五号 頁数 約五百頁 価格 参百円
払込方法 振替口座 大阪一七八七五番を御利用下さい
払込期日 昭和廿八年二月末日迄



八鳥教授を偲ぶ

石田 憲 次

八鳥教授が九月の初になくなられて、間もなく二学期の授業が始まつたが、私は千里山の学会に行つても何となし淋しく、故人の姿を心待ちするやうな気持ちを満し得ないで家に帰つた。私はそれを一度ならず妻にもらした。往きかへりの途中で偶然お目にかゝつた一二の教授の方にもお話したと思ふが、この間もゆくりなく京大の泉井教授に出会して、またそれを話題に持出し、故人がまだ学生であつた頃から知り合つたと言はれる教授と色々お話をしたものである。

私が八鳥氏の名前を初めて承つたのは細江博士の没後色々面倒を見られ、やがてその遺書を関西大学に贈與せられるに至るまでの一番の功勞者としてであつた。その後、私は当時の文学部長堀教授から大学院の方に出講するようにお勧めを受けて承諾したが、まだ實際には出てゐない夏の日のことだつたと思ふ。京大の私あてに千里山の学会で行はれる細江博士追悼講演会の案内状を受取つた。私は博士には相当長く知を辱うしてゐたばかりでなく、没後御遺族の方からスキート編チヨースターの初版など学校の方へ御寄附を受けたりしてゐるから、この機会

に追悼の微意を表したく、不知案内のところを出かけて行つたのだつた。すると会場はかねて一度英文学会で覚えのある講堂であつた。少し後れて到着し、山本、泉井諸氏の講演を承つた。微風の通ふ講堂に絶えず燕が二三羽出たりはいつたりしてゐたのが記憶に鮮かである。八鳥氏に親しくお目にかゝつたのはその時初めてであつたが、私の参加が全く意外であつた爲でもあらう、氏は喜んでくれられ、会の果て、後、屋上で細江未亡人、講演者など、私をカメラに収められ、追悼の茶話会にも案内されて厚遇されたのであつた。

その年の秋からと思ふ、私はいよいよ講義を始めたが、講義以外に堀教授、八鳥教授など、雑談する機会が出来たことは、甚だ愉快であつた。她が八鳥教授は、「アングリカ」と共に英文学研究誌の出版を企画され、寄稿に加へて題名の選定をまで私に依頼された。私は元來悲観的と言はうか、何と言はうか、冒險的なところは少しもないので、教授の企ても旨くは行かないやうな豫感が前に立ち、多少はさう言ふ口もきいたのであるが、教授は見事難関を突破され「英学」

の一号は世に出た。

私は「英学」一号出版記念の爲に開かれた初夏の日の午餐会を忘れることが出来ない。新館の見晴らしのよいゼエラダで、学校御自慢のコックさんの洋食料理に舌鼓を打つたあとで、堀、梶原、進藤その他の諸氏が抱負や感想を語られた。さうして八鳥教授は始終司会の役をつとめられたのである。

八鳥氏の写真遺業は学内でも恐らく評判だつたらうと思ふ。文学部長になられて随分お忙しかつたことであらうが、暇を見付けて私の写真をとつて下さつた。図書館の細江文庫のところ、屋上で、正面入口の楠の前で、裏道の下り坂で、恐らく七八枚は写されたであらう。それでもまだ満足出来ぬと見えて、日時を打合せて拙宅まで出かけて来られ、私一人を、荆妻と二人を、洋室で、和室で、庭や玄関前で、これまた十枚近く撮つてくれられた。

籍顔で、恰幅がよく、エネルギーそのものと言ふやうな風手で、練腕家を聯想させたが、實際附合つて見ると、謙虚で親切で、そんなところはなかつた。山本忠雄氏の苦心の英文の大著が上梓されたのは恐らく八鳥氏の斡旋に負ふ她が多かつたと思ふが、その功に居るといふやうなことは気振にも示されなかつた。また後に文学部長の君としては相当がつかりせられたらうと思はれる事件に遭遇

された時も、私の慰問を謝するのみで多く語らず、怨言らしいことは一言も漏されなかつた。

最後にお目にかゝつたのは、学部学生の英文学会の爲に私が拙い講演をした時である。これも夏のこと、前の「英学」の集りから略ぼ一年経つて部屋こそ違へ、また同じ会館で午餐の饗應にあづかつた。私はその日の午後一時十分から大阪市大の理工学部で講義があるので、折角の御懇応もゆつくり預けないだらうと思つて居ると、ジープを用意して置いたからゆつくりするやうにとの君の言葉なので、その周到な配慮に感激し、我を忘れて同席の諸教授と話に耽つてゐると君からもう時間だからとの注意を受け、皆さんに見送られ、君からはジープの戸を開き行先まで言つて預いて乗つたゞらうと思ふ。長路風を切つてゆくジープの乗心地はまことに快適で学校に着いて見ると、まだ十分近く余裕があつた。その後遂に相見ず、残暑のまだ烈しい日の御葬式に列したのである。私が名残り惜しく思ふ心持は十分わかつて預けるだらうと思ふ。恐らく教授が最後の最後まで心に懸けてゐられたであらう「アングリカ」の四号と「英学」の二号とを前に置いてこの手向の一文を草した次第である。

(員外教授、文博)

報 内 部
 学 部
 二部 (夜間) 天六学舎へ
 一 中 一 高
 は 千 里 山

一月十六日の理事会は、学部第二部天六学舎移転について最後の決定を行い、愈々本年四月一日より、これを実施する事になった。第二部移転はかねがね問題となつた所であるが、この決定により一応解決が得られることになった。既に事務当局では、これに伴う受入態勢について鋭意研究調査中であるが、天六学舎に四階建延約三五〇坪の教室も新築される予定で大体その見通しは明るい模様である。これに伴つて一高・一中の千里山移転もその根本の方針は同時に決定を見たが、なほ充分検討する余地も残されているので今後の理事会に於て更に慎重に計画の上実施することになった。

地上四階地下一階建
 天六学舎増改築

第二部天六学舎移転の為校舎の大増改築が計画されているが、地上四階地下一階の鉄筋コンクリート延三八七、二坪の校舎を新築、更に現在の中、一高校舎も改築し、図書館の充実、学舎の照明等受入に備えて万全を期している。

私立大学協会総会

昨年十二月二日三日両日に亘り法政大学に於て私立大学協会総会を開催、私学振興会に關する国庫補助の予算獲得及び、私学恩給財団の拡充等が討議され、同協会理事校である本学より春原源太郎理事がこれに出席した。

哲学懇談会開催

昨年十二月二十三日は千里山学舎大学院に於いて大阪哲学懇談会研究発表会が開催され、田中照教授が研究発表を行った。

故吉木教授追悼会

故関西大学短期大学部教授評議員吉木一朗氏の追悼会は、逝去の日より丁度一ヶ月目に當る一月三十一日午後一時より故人にゆかり深い天六学舎第三十七教室に遺族はじめ本学教職員、学生、来賓等多数参列して挙行、矢口短大部長の挨拶について、学長代理として木村法學部長、学生代表、卒業生代表ら夫々弔辭の朗読あり、河村信一教授及び太田鶏一教授より追悼談があり、深い感銘のうちに午後三時終つた。

学位請求論文

審査手数料一萬圓に

このほど学内より提出された学位請求論文審査手数料を一萬圓とすることに決定した。但し論文提出した時研究特別補助費として一萬圓が支給される。尙学外よりの手数料は昭和二十七年六月十七日認可あり一萬圓である。

校友会館設立具体化

候補地はすでに内定

かねて校友多数の要望によつて建設が計画された校友会館は、既に一昨年二月十五日その建設補助金として百万圓が予算に計上されたが、近くその候補地を得たので具体的設立が急速な進展を見せるに至つた。理事会では二十七年予算及び来年度予算より夫々二百萬圓計四百萬圓を支出する方針を決定した。

入試始まる

短大推薦入學 合格者決定

入學試験シーズンのトップを切つて二月一日短期大学部推薦入學志望者一二四名(一部四三名、二部八一名)の銜衡試験が行われ、三日その合格者一〇一名(一部三三名、二部六八名)が発表された受験者は大阪を中心に近畿、中国、九州の西日本一円にわたつてゐる。

また二月二日より各学部一齊に入學志願者の受付を開始、十二日現在の数は次の通りである。(括弧中二部)

法一五五(一九)、文六九(一)、経一九四(一七)、商一一六(一一)、短大九(三)

在外研究員に四氏

さきに在外研究員規定の成立を見たが本春四月より法學部中谷敬壽教授、文學部堀正人教授、經濟學部矢口孝次郎教授、森川郎教授を夫々欧米各大学に派遣する事に決定した。その派遣大学等具体的には詳細は現在の所不明であるが、近く学長の手許に於いて成案を得次第発表される。尙滞在期間は約六ヶ月の予定である。

学会・人事往來

◇ 石浜純太郎、壺井義正兩教授、三上諦聽助教授は昨年十一月三十九日天理大学にて開催された阪神東洋史懇談会に出席

◇ 岡野学長は十二月十・十一の両日に亘り文部省に於いて開催された大学設置審議会に出席、又本年一月二十七日から二十九日の間、同審議会大学院審査会に出席

◇ 榎本金次郎教授は昨年十一月三十日より十二月二日の三日間中央大学に於いて行われた全日本大学応援團連盟精成式に出席、引続き東京都内各大学体育実施状況を視察の為上京。

◇ 杉原四郎教授は昨年十二月十三日関西学院大学で開催された經濟學史学会関西西部会に出席

校 友

千里山昭八会

一月十六日(金)午後五時半より大阪駅日本食堂特別室に於て一月例会を開催昭和二十八年の新春を迎え益々若返つて顔を並べ気焔當るべからざるものがあつた幹事より二十周年記念行事準備経過の報告及び月例会の件を述べ且つ母校の現状について報告したが一同母校に関心を寄せる深いものがあつた。一応議事終了後例によつて小宴に入る。今回は本田、西村の両君が新賓として現われたので一層愉快な宴囲氣を呈した。二月例会は舞子の浜にて開くことと約し午後八時半会を閉した。

当日の出席者左の通り
 浦野健二郎、賀本敏英、大島利夫、木下忠夫、西村善雄、齋藤正興、本田竹藏、武田晴夫、藤本順二郎、中家利國、高尾省三、野田文雄、多賀恒一、美吉克之祐、宮脇實三郎、宮地正一、田淵三郎、平井三朗
 (前不同敬稱略)

秀麗会開催

一月二十五日は新年宴會を兼ねて本年初の懇談会を開いた。大阪市内外に居住する会員一部の集會ではあつたが、相互の意氣投合、和氣霽々の中に開かれた。最初に、新卒業生の受入について、学校当局の態度に関して種々論議がたしかわ

れ、平井学生課長よりも就職斡旋委員として熱心なる御希望等あり、具体的方法も論ぜられた。特に校長の職にある先輩は後輩を思ふ温い氣持より、快くその受入れを内諾をされるなど、充分な結果が得られたと思う。次いで本年春季總會は桜花咲き乱れる千里山外苑で開く事に決定、宴に入り、若かりし頃の学生時代にかえり、昔を偲び時を忘れて歓談、學歌を齊唱して散會した。

当日の參會者は会長、副会長、幹事の外の通りである。

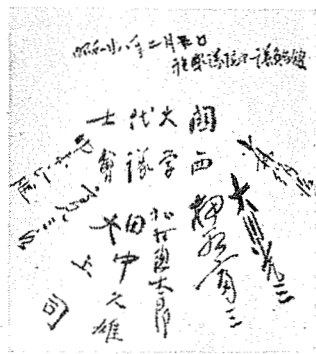
平井学生課長
 神保敏男、戸川一雄、岸田憲次、栗林章、高月泰雄、市道正雄、金本朝一、法覚健一、岩崎猛、長柄金吾、齋藤善三、土部弘、神堀忍、星野信夫、藤本榮一郎
 (前不同敬稱略)

白聖に殿堂に 関大代議士會

かねて懸案の関大代議士會はこのほど正式に発足、第一回總會を二月五日衆議院第一議員會館で開催した。この日押谷政務次官より親旨挨拶の後、押谷、田中、大川の三氏を幹事に選出、今後先輩代議士相互の親睦と母校の繁榮を期して盛大裡に開散した。

猶二月中旬には田中氏の發議により東京校友會との親睦會を開く事に決定した

(事務局 田中善行 井上浩臣所正監)



代議士會より寄書
 二月五日發足した関大代議士會より右の様な寄書きを頂きました。厚く御礼を申上げて御紹介致します。

學報購讀者各位にお知らせ

校友をはじめ學報購讀者各位にお知らせ少々お願い致します。學報は各位の御支授と御協力により毎号順調に發行されて居ります。つきましては来る三月を以て各位の中大部分の方々購読料切れになつて居ります。購読料切れの場合は發送の帯封にその旨略記致してありますから御注意下さい。尚來年度の購読料も年間三百円の予定でございます。頁数も増加して學報の使命に充分副いたいと思つて居ります。

右お知らせ少々お願い迄。
 昭和二十八年二月 関西大学學報局
 (尚御送金の際は振替口座大阪二六七七二番を御利用下されば便利です)

レンズを通して

関西大学千里山の法文 して格好の目標物です。学舎の大ドームは、関西 大学の象徴みたいな気が します。親父の代から三 十年も関大の指定館とし て春夏秋冬、カメラ片手 に山を歩いてあちこち写 して見ると、フット窓越し になりましたが、やはり何となく写したのが表紙写真 アルバムには不可欠なそ です。無理な構図かなと

は思いましたが。私も 関大の卒業生、関大を愛 することにかけては他に ひけはとらないつもり、 写真を通して發展を祈る 一人です。
 (佐々木豊明・昭五五号)
 コーライフレックス・ 絞りF11・1/4s・D76・ 1ペロナE2 八重指定 液

象の 話

広瀬捨三

私は子供の時から動物と汽車が好きだったので、よく動物園と少し足を伸して天王寺駅へ行つた。動物園では異国の猛獣が好きで、殊に象の前え来ると低徊これ久しうして去らなかつた。不思議に猿だけは見るのが嫌で寄りつかなかつた。万葉の歌人は酒を呑まぬ人を猿にかも似むと詠んだが、呑む人の方が猿に似ているのではないか。西洋でも醜雨の段階を動物に喩えた次のような話がある。

即ちノアが葡萄酒を醸す際悪魔はそれに羊、獅子、猿、豚の血をそそいだので、人が酒を飲めば初めは柔和なこと羊の如く、ついで猛きこと獅子の如く、更に飲めば愚なること猿の如く、終には豚の如く泥中に眠るといふ。チョーサーのいう猿酒も、酔つて猿の如くなる酒の意である。

思はず脱線をしたが、脱線といえはマレー半島で野象の牝が汽車に剣ねとばされたので、牡が怒つて汽車に衝突して、

機関車を顛覆させ、自らも重傷を負つた。驚れたことがあつて、子供の頃の絵本や絵葉書に残つてゐる。家の近所に絵葉書屋があつて、小学校のゆきかえりによく覗いてみた。プロマイドも勿論売つていたが、四枚一組の絵を描いたのをよく見た。今から思えば竹久夢二調の頹廢趣味のものだつた。この絵葉書屋に象や猛獣の実写や猛獣狩の絵葉書が出るものがあつてよく買つて貰つた。

実物の象は動物園のほかにサーカスで見る機会があつた。新世界の通天閣の南一帯をルナ・パークと称して、中え入れば活動写真、芝居、動物園などがあつた頃、その中で象の曲藝をやつていた事もあつた。日に何回か鐘を鳴らして人を集めて、樽に腰かけたり乗つたり、細長い木の上を歩いたりしたようだ。天王寺動物園より先に、ここえ河馬も来て、パケツの底をたたくと水槽からあがつてきて、大口を開くと小芋を投げ込んでやつ

ていた。あの巨大な図体も豚のようなきかない感じを興えないので好きだ。河馬と同じく岸も好きで、蛙より藁の方がよい。昆虫ではかまきり。かう並べてみると私は同じ動物でも、人間に伺ひ馴らされたものよりも、野生味の横溢した大きな奇怪なものを好むらしい。だから中世代の大爬虫類は殊に自分の心を惹いたもので、これの出でくる「ロスト・ワールド」という活動写真を飽かずに何回も見て、終いには築港の場末の映画館まで行ったことがあり、市川百々之助のチャンバラと二本立てやつていた記憶がある。横山又次郎の「前世界史」や「古生物学綱要」を判らぬなりに読んだもので、徳川夢声も前記「ロスト・ワールド」帝劇封切の際活辯であつて、之等の本を参考にしたという。尤もこんな大爬虫類は現存しないが、インドネシアのコモド島に猪を尻尾で打殺して食べる大蜥蜴がいることが昭和二年頃紹介せられ、その探險記も二、三出ている。日本では猪が蛇を食べるといふがその仇を打たれているわけである。今では海に鯨、陸に象が大きなものの筆頭のようなだが、空想上では「千一夜物語」のシンドバッドの冒険中に

ロクという巨鳥があつて、その嘴と両足に都合三頭の象を咬んで飛上り、又この鳥が岸を襲うところもある。一去年七月三越であつた南方熊楠展に、南方先生が大英博物館で洋書の抜書をされたノートが展覧されていた中に、この巨鳥が三頭の象を尻を抜く如く運び去つてゐる絵があつた。先生の「磐石考」にもこの話が出ている。こんな鳥がいては象も叶わぬが、中世、西洋では龍が子象を襲うので、親象は子象を水中に隠すとの傳説がある。象には死場所があつて、そこで息を引取るという傳説も、シンドバッドの冒険中であつて、これで彼は象牙をふんだんに手に入れる。この趣向はターザン映画にも使われていた。

動物園は小学校を出てからは殆んど行つた記憶がなく、サーカスも昭和十年頃ハーゲンベックを甲子園の浜で見て、おつとせいの曲藝（これはインチキなものだ）、ゴムまりを支えているのではなくて、ゴムの薄い膜を咬んで上向いていっているのだ。）だけは覚えていたが、不思議に象のことは思い出せない。実物以外に象に親んだのは何んといつても少年の頃の活動写真である。ターザンと象の仲良し

なのは原作小説からであつて、ターザン映画も初めは原作に忠実なものであつたが、ついで当時流行の連続活劇に仕組まれて激進に亘つて上映された。千日前の映画倶楽部と新世界のパーク・キノマで見た記憶がある。其頃のターザンに扮するのはエルモ・リンカーンであつた。

連続活劇では此頃流行の西部劇があつて、アート・エーコードとかいう名前が思い出され、又ラジオのアメリカで普及しかけた頃らしく「電波王」というのもあつたが、象の出でくる「猛獣と女神」とか「スタンレーのアフリカ探険」をしていたのは大正十二年頃であるうか。関東大震災の年「死の猛獣狩」という実写があつて、アフリカ象が群をなして襲つてくるところがあつた。昭和二年頃「チヤング」というのは、シヤムで野生の象の群を捕えて飼ひ馴らす実況を写したもので、他に豹も出てきて兎をうまく逃れたり、一発で打止められたりする場面があつた。此頃は猛獣映画のみならず、一般に活動写真を殆んど見たことがなかつたのに、どうした風の吹き廻しか学友会の映画研究部顧問に收つているが、知つてゐる女優といえばパール・ホワイトから精々新しくしてガルボ、デエトリツヒまでである。

子供の頃から象の玩具や置物を買つて貰つたので、セルロイド、金物、瀬戸物と有象無象が集つてゐる。故村上喜貞先生の書齋には椰子の木で作つた大小一對づつの象のブツク・エンドがあつた。この大きな方の一對を御遊族にお願いして、蔵書の一部と共に頒けたいだいて、現に愛ぞうしている。本を買つてくると必ずこの象のブツク・エンドに挟んで、一晩机上に置いて、初めてわがぞう、替になるのである。同じような象のブツク・エンドは其後被種入手した。虎の蒐集家が「銀座カンカン娘」のレコードを、「虎や狼こわくはない」という詞がある爲に蒐めたというが、私はそれ程何んでも象に關するものを蒐めてゐるわけではなく、出来るだけほんとの象らしい恰好のが好きなだけだ。昔聖フランシスは人間に絶望して雀に説教したというが、私の象蒐集は決して「ガラスの動物園」ではないつもりであるが。

子供の頃塀筋の道頓堀と日本一の中間の西側に、ダンロップ・タイヤの店があつて、タイヤの中から向ひ合つた二頭の象の首が出てゐる看板があつた。近頃では同じ塀筋の久宝寺町あたりに象印の膳写機を売つてゐる店があり、象マークの看板があつた。大阪駅向ひ側に象屋とい

う洋品店があつて、陳列や店に金物、黒檀、木彫りの種々な象が置いてあるのでよくのぞきに寄つたが、この店も二年程前になくなつた。天六学舎へ行くと手前の煙草屋の陳列には昔から陶器の象が鼻をあげていて、時には一本煙草を持つてゐることもある。いつも横目でにらんで通るのであるが、時には放出葉巻の一箱も齧齧して買つて、さてあの象を譲つてくれないかと頼むのだが、この主人はなかなかうんといわない。しかしこの象も最近見かけない。又塀筋八幡筋停留場附近の玉突用具を売る店の陳列に木彫りの象を市電中から見つけてからは、折があれば陳列をのぞくことにしている。

爲すは悪しきに從う」と書いたものが、果してその通りで、まことに感覚の快楽は止めるに難く、放出葉巻のうまい味を覚えてからは、禁煙のキの字もいわずになつたと思ふに噴かれてゐる。オルダス・ハクスリーのいうように意志の弱い人間の一生は上記の五字に要約すること出来る。

葉巻も喫えばそれで満足で、喫煙具に凝つたり、煙草の歴史を調べたいとは思わぬ。それと同じで象も見ればよいので、今年も新年早々ミニ象出ると、サーカスの前に繋いである象を他かず眺めた。尤も戦後の象はこれにしても、動物園にしても小型で、頭にしよぼしよぼ毛の生えているのが目立つて、まるで鼠の化物みたいで一寸物足らない。そんなわけできて象のことを書かうとするのも何と知らない。私の名前は捨ぞうだから、お釈迦さんのように前生は象であつて、それを捨てて人間に生れてきたのかもしれぬ。しかし前生のはレーテ河で忘れてしまつたから、こんな文を書く時にはなほだ困ると長い鼻を巻いて終りとする。(一九五三・一・一三)

(文学部教授)

学生

努力の結集 全日学生スキー選手権大会

荒さが目立つ籠球部

◎スキー部 前号記載以後に於ける全日学生スキー選手権大会の成績は次の通りである。

耐久 北林(第九位) 複合 日景(第七位) 純飛躍 日景(第十位) 富井(第十五位) 長距離 後藤(第一位) 一時間十三分五十八秒

全日本のベテラン揃いの中で、よく後藤が長距離に優勝したことは、本学のみならず全関西の誇りと云えよう、猶、最終競技のリレーのラツプタイムにも、後藤は第四位にマークされる健闘を示した引続き一月二十五日より挙行された神鍋ジャンプ大会に参加、全日本の強豪連に伍して、本学富井は、(51.5米、55.5米、53.5米)を飛び得点三一五・五で、明大藤沢に三点点差で破れ第六位に入賞した、続いて一月二十七日よりマキノ・スキー場に於いて、第三回近畿スキー選手権大会が開催されたが、本学は大阪代表として参加、北林、後藤、日景、稻石等の活躍により、二位京都を十九点引離し圧倒的な大差をつけて優勝した、学年試験を控えて、スキー部の諸君は、更に第八回冬季団体大阪予選を行い、団体出場に備えて

猛練習を続けている。

◎アイス・ホッケー部 前号記載の全日学生選手権大会に参加後、一月二十三日より盛岡市県営リンクに於いて挙行された、第八回冬季団体氷上競技大会に、大阪府代表として出場、第一戦に長野県と対戦し左の成績で敗れた。

大阪(本学) 3 (2 | 1 | 1) 8 長野
0 (1 | 1 | 1)

休む暇もなく帯阪、一月二十九日(前号一月二十七日を変更)より三日間、大阪スケート場で関西学生氷上選手権第一回大会が開催され、これに参加第一日、同志社大と対戦

本学 2 (2 | 0 | 0) 2 同大
0 (1 | 1 | 1)

の成績で引分け、第三日、同学大と対戦の成績で引分け、第三日、同学大と対戦すべきものがあつたが、攻撃にはパス悪く勝味はなかつた、引続き三大学リーグ戦及び、近畿氷上選手権大会に臨むことになつてゐる。

◎籠球部 全日本総合選手権大会が、一月二十一日より神田国民体育館で開催

されたが、本学はOB北野、猿蓑を加え全同大として出場、第一戦は捕鯊豚、第二戦全愛知と対戦、これを破り、

全同大 61 (44 | 17 | 29) 48 全愛知

準々決勝には、優勝候補立教大と対戦、C中井、G北野、末村の健闘よくタイム・アップ一分前、一点差につめたが、十秒前、ワン、ゴールを決められ惜敗した前半に得点差が開いたのが痛かつた。

全同大 54 (36 | 18 | 31) 57 立教大

これで、全日本バスケット・ランキングには第五位にシードされた。

◎野球部 本春、守坂主将、田畑投手田代捕手、高瀬、岡本外野手、大塚内野手、坂本マネージャーを送り出すが、主力メンバーには大して影響なく、冬季休暇を利用して行なつた、対慶応大、対法政大、新人戦には、軽くこれを一蹴した

本学 4 | 2 慶応大 高知球場
6 | 0 法政大 西宮球場

本春のリーグ戦には、本学野球部第三回目の黄金時代の再現が期待されている、投手朝、山村、大西、吉村、工藤を揃えクリン・アップトリオにも、大津、小林小田を擁する強力は、恐らくリーグ戦にも優勝するだろうと思われ、全国大学選手権出場も夢ではない。

◎ラグビー部 一月一日より名古屋に於いて開催された、全国新制大学選手権大会に出場し第一回戦北海道大に圧倒的に

勝つたが、第二回戦には、優勝候補西南学院大と戦い敗れた、試合成績は次の通り

本学 47 (3 | 3 | 18) 29 西南学院

当部は広森松岡両マネージャー、善積主将他七名が、本春卒業する。

◎卓球部 一月十六日より三日間、徳島市民体育館に於いて全日本硬式卓球選手権が開催され、当部も参加したが、山根、飯田組のダブルスが、全日本第五位にランクされたのみであつた、引続き一月二十四日より同大体育館で挙行された対同大定期戦には、完敗に近い成績であつた。

本学 単 2 | 6 同大
複 0 | 3

立命、同大の陣容充実には、リーグ戦の常勝校同学大と対等に戦つていた当部も、最近の低調さは眼を覆わせるものがある部員の奮起を望み度い。

◎サッカー部 第八回東西学生選抜対抗戦が、一月二十五日西宮球場で挙行されたが本学よりHB恒達、岩田、三田のトリオ、FW算が参加し、恒達、岩田等の健闘により、強力を東軍のFW陣を早いつぶしで、好機を造り前半2-1のリードも空しく、後半三十四分一点を決められ勝敗逆転、惜敗した。

◎軟式庭球部 昭和二十七年、西日本軟式庭球ランキングが発表されたが、本学の岡本、小川組は第一位にシードされた、小川は本春卒業するが、岡本は現在三年次であり、本年度の活躍が期待される本学のホープである。

野球部黄金時代

再來か

体育各部新地圖

以上で冬季競技の部を除けば、全部シーズン・オフになり学年試験のため二月は体育、文化、学研各部とも活動なく試験の終了を待つて新年度シーズンに備えての活動が開始される、こゝで、新主將、新マネージャーの下の各部新陣容を展望して見よう、レギュラーの大多数を本春部り出す部もあり、既に有望新人の大量入学を希望する部もあつて、新シーズンの開幕時には、各部とも相当違つた体育差地圖が生れることだろう、新人入学希望者に就いては、入試が完了するまでは名を秘めて置かねばならないので、まだこゝにそれを公表する訳にはいかないが強化せられる数に就いて報告したい。

野球部は前戦既戦の通り、名マネージャー坂本の後を継いで、小林一がこれに當り、新主將には、既に本学のみでなく、全国西学生野球界の強打者として識

られていた大津 淳が内就任、外野の攻守には、名捕手田代、秋の最優秀選手として表彰された田畑投手を送り出すのみで何等変動なく外野には大津主將、佐々木、小田と強好打者が健在であり、内野は三壘桐田、遊撃西村、二壘高木、一壘小林は不動であり、ホット・コナーを守る捕手には久保田が田代に替わるのみで何等の不安もない、控えには、山根、高島、近藤等が在り、投手陣また、網、山村の健康回復が期待され、昨秋活躍した吉村、工藤を加え、漸く調子を出し始めた大西を加えると、守備面も盤石の安定

さがあり、本年こそ東京六大学を破る陣容を整える年とも云える、新入学希望の新人群も既に三十人余の申込みがあると聞いている。

米式蹴球部は主將久保田を始め前田、佐竹、釜下、野田、田中、吉岡、草葉のレギュラーを送り出すが、十一人のメンバーから、八人の卒業は大打撃であり、余滅に近く新主將井原、マネージャー石塚の苦衷が思いやられる、名手福地、島田、深田等の健斗を期待したい、新入学希望は現在十二三名では、心細く全国制覇再現の夢いづこと云う所である。

ホッケー部は西尾主將、朝田、小林、堂崎の四名が卒業、G K 小林の卒業はゴール・ポストを守る名手だけに、守備力の上では大きなマイナスである、攻撃の主力F W 三人の卒業も得点力に大きな影

響を持つが、H B・F B のバック陣が健在であり、新入学希望者には七名の優秀な高校界の名手が予定されているから、ホッケー関大の名を辱かしめるようたことはあるまい。

相撲部は出水、稲田、松林、主力三名の卒業、新主將は有賀、マネージャー岡田、温厚な有賀主將の下に、宮脇、東川大江等の中堅で固め、今春入学を希望する新人達には全国高校界の強豪数名があり、入学の曉には本年は無理としても、二三年後には多年の傳統ある本学相撲部名を培得るだろう。

柔道部は卒業者が少く、一瀬主將、野見山副將、中桐マネージャー、他一名の卒業のみであるが、全日学生選手権第二位一瀬、副將野見山を送るのは痛いが、新主將堀田の他、現在一二年次に渡辺、原田、藤勝、三浦等新進の闘志技術に優れた部員四十余名の他、本学柔道部の試合態度、部風を慕つて入学希望する者三十余名に近く、高校界でも優秀なる有段者揃いであるから、西日本選手権三年連覇も必ず実現されることと期待されている。

拳斗部は主將バンナム級チャンピオン福本、フライ級一位の橋本、栗田等の卒業に戦力の低下はまぬがれないが、新主將安田がアウト・ボクシングに才を見せているので、タフな成瀬、吉津、山下、重量級の西尾等の進境に期待を懸けることとする。

られるし、新入学希望者は七名あり、拳闘関大の盛名を落すようなことはあるまい。

籠球部は主將三宅、マネージャー藤田 C 中井、G 大東が卒業する、戦力の中心 C 中井、G 大東、三宅等の卒業は確かに大きく戦力に響くが、新主將笠井 G 木村等が健在の上に長身者揃いの伊庭、周、宮脇等、今後の努力と精進とチーム・ワークが完成すれば、決して戦力が低下することと考えられず、西日本選手権四連覇の実現も期せられよう。

蹴球部は主將恒藤兄、伊藤、マネージャー福山、乙畔、二宮富山、秋田、川口島等が卒業するが、F W 寛、H B 新主將三田、岩田等、東西対抗に選抜せられた部員を中心に更に部の充実が期待されるが、新入学希望者に就いては、現在の処詳細はわからない。

陸上競技部はアジア大会以後、スランプだつた田尾を始め、松井、元木、大野、恵須川、川端等が卒業するが、玉江、末国、指山、岡田等、全日本級のベテランが健在であり、新入学希望者も二十名余を数え、再度、西日本の覇者たらんことが期待されている、陸上競技は個人技ではあるが、総合力の上に優勝の榮が輝くものであり、部員の一致團結が望まされる。

以上その他の部に就いては次号に記載することとする。

考へ物新題 其の一 一 鶏 学 人

前 置 き

編集子から学報に何か書くようにとの申出を度々受けましたが其任でないの
 で其都度御断りして来ました。このところ自然科学関係のものがないから是非
 御願し度いと否応なしに押つけられました。何とかならうと高を括つて居
 ましたが借となりと筆に縁のない悲しき埋草一つ書けません。期限は迫るし仕
 方がありませんので「超耐熱合金メタルセラミックスに就て」と云ふ興味も興
 益もない凡そ殺風景な一文を物して責を塞いだ次第でした。従つて読者各位に
 御迷惑を御懸けするであらうことは覚悟していましたが、活字になつたものを
 一読するに及んで今更ながら冷汗三斗の思がしました。折角貴重な紙面を提
 供して頂いた学報に対しても申訳がありませんので、せめて罪亡しの一端にも
 と思つて小生が一世一代の智慧袋を絞つて創作した二三の考へ物を御披露する
 ことにしました。恥の上塗になるのが落です苦衷の存するところを御察下さ
 して御一読賜らんことを。

七五三の法

先づ最初は縁起を祝つて七五三の法と
 行きましよう。英俊雲と集る学報の読者
 諸賢に真剣に考へて頂く程の難問ではあ
 りませんが、大の男が一世一代と云ふの
 ですから多少は齟ごたえがあるかと潜か
 に期待して居ります。前置きが長くなつ
 て恐縮でしたが弘化元年武田多則著す
 ところの「真元算法」と云え和算の本に次
 の詩が載つて居ります。何もそんな古い
 書物を持出すには及びませんが、そこが
 それ職業意識で物体をつけないと気がす
 まない悪癖のなすところと御許し下さい
 三人同行七十稀 五樹梅花廿一枝
 七子同円正半月 除百有五解可知

平仄もあやしい誠に変挺子な詩です
 が、是ぞ七五三の解法を秘めた默示録で
 あると云ふのですから眉唾ものです。

そこで茲々七五三の法の説明をいたし
 ますが、今は昔、中学校の入学試験華か
 なりし頃、吾々小学生を悩ました鶴亀
 算、年齢算、加不足算と謂つた算法があ
 つたことを御記憶でしようか。子供に御
 菓子を配るのに五つ宛配れば八つ余り、
 六つ宛配れば三つ不足する、小供と菓子
 の数を問ふと云つたものです。七五三の
 法は此範疇に属する算法の一つで、七、
 五、三の夫々で割つた余りを與えて元の
 数を求める算法に小生が仮りに命名した
 ものです。鶴亀算や加不足算は代数を使

えば何の勞もなく解けることは先刻御
 知の通りですが、七五三の法はそう上手
 くは参りません。ではどうして解くかつ
 て、それがそれ三人同行七十稀なりで行
 くのです。三で割つた余りに七十を掛
 け、五で割つた余りに二十一を掛け、七
 で割つた余りに十五を掛けて得た三数を
 加へ、それから百五を引去れば求められ
 ます。三、五、七で割つた余りが夫々二
 、三、四であるとしますと今の計算で五
 十三が求める数です。勿も百五十八も二
 六十三もこの条件満足しますが最も小
 い数を正解とします。

何だ、そんなものは朝飯前だと御考へ
 問題。三、五、七、十一、十三、十七
 で割つて夫々一、二、三、四、
 五、六が余る最小数を求む
 (短大教授)

$$\begin{array}{r} 333771038 \\ 17)5674107652 \\ \underline{51} \\ 57 \\ \underline{51} \\ 64 \\ \underline{51} \\ 131 \\ \underline{117} \\ 120 \\ \underline{119} \\ 17 \\ \underline{17} \\ 65 \\ \underline{51} \\ 142 \\ \underline{136} \\ 6 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 515827968 \\ 11)5674107652 \\ \underline{55} \\ 17 \\ \underline{11} \\ 64 \\ \underline{55} \\ 91 \\ \underline{88} \\ 30 \\ \underline{22} \\ 87 \\ \underline{77} \\ 106 \\ \underline{99} \\ 75 \\ \underline{66} \\ 92 \\ \underline{88} \\ 4 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 436469819 \\ 13)5674107652 \\ \underline{52} \\ 47 \\ \underline{39} \\ 84 \\ \underline{78} \\ 61 \\ \underline{52} \\ 90 \\ \underline{78} \\ 127 \\ \underline{117} \\ 106 \\ \underline{104} \\ 25 \\ \underline{23} \\ 122 \\ \underline{117} \\ 5 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 810586807 \\ 7)5674107652 \\ \underline{56} \\ 7 \\ \underline{7} \\ 41 \\ \underline{35} \\ 60 \\ \underline{56} \\ 47 \\ \underline{42} \\ 56 \\ \underline{56} \\ 52 \\ \underline{49} \\ 3 \end{array}$$

新春を迎へ貴殿益々御盛祥の段慶賀に堪へません。

扱て、昨年九月の総選挙を経て、茲に関西大学出身の多数の国会議員を擁するに至りました事は、同じ母校に学んだ一員として、心から欣喜に存じております。

私達の母校、関西大学は近來飛躍的な発展を遂げ校友既に三万余、学生数一万五千人を数へ、各学部の充実と共に大学院を中心に、昭和二十五年に千里山パークの買収、二十七年法文学舎別館新設、これ等に伴ふ再建五ヶ年計画が着実に実施せられ、見事な成長を遂げるに至りました。

就きましては、此度同じ母校に育ち、同じく国政に参与致す者として、之の親睦と母校への協力(母校での講演会、会報執筆等々)を期し母校発展に微力を致すため茲に関西大学代議士会(假称)結成を考ふるに至りました。

各位におかれましては何卒御良察の上宜しく御指示、御協力を給ります様御願ひ申し上げます。

一月二十五日

北村 徳太郎
押谷 富三

関西大学出身国会議員名簿(イロハ順)

幹事	大川 光三	議員	改進黨	大阪三区	衆議院議員
	大上 司		自由党	兵庫四区	
幹事	押谷 富三		自由党	大阪二区	
	北村 徳太郎		改進黨	長崎二区	
	小林 絹治		自由党	兵庫二区	
	田中 久雄		改進黨	三重三区	
	高見 三郎		自由党	静岡二区	
	中村 正雄		自由党	静岡二区	
			右社会党	全国区	参議院議員

【編集後記】

◆第二部(夜間)が愈々本春四月より全員天六学舎に移転する事に決定、それと共に現在天六学舎にある一高・一中は千里山に移る方針が確認されました

◆天六学舎を増改築して受入態勢はまず充分という所。事務当局は目下学年末試験、入学試験と控えて連日の大活躍学友会部室、体操場等々移転にからんだ問題は山積。

◆本年四月から愈々中谷、堀、矢口、森川の四教授が歐洲へ在外研究員として派遣される事になりました。留学生としてではなく研究員としての派遣は約二十年振りと洩れ聞いています。とにかくこうした中堅教授を四氏も一度に派遣する事は、他の大学にも見られない所であり、六ヶ月と云えば短い期間ではあるが、それだけに立派な成果を期待するものであります。

◆春の声と共に、世界各国から楽壇名士の来訪が話題の種をふりまく。昨年のブダペスト、コルトーの例もあつて早くも切符々々で血眼。世界一流といふふれこみだけでわれもわれもの聴衆が広い会場に溢れ、切符がびつくりする程のプレミアム付きで売れるというのだから、日本の音楽文化の水準も高くなつたものである。そのプログラムが紳士淑女のアクセサリーみたいに云われるのはいさゝか辟易。

◆ギーセキング(読売)、シゲタイ(毎日)、アンダーソン(N・H・K)と宣傳の華やかさもさることながら、

やはり堂々たる顔ぶれ、愛好家には最大最良のプレゼント、是非お聴き下さいとは各社の挨拶状。さてこちらの懐ろは……

◆ゲル次族はその打開策に予約積立という手段を考えついて、着々準備中とある。大丈夫出来ませよと、コルトーもその手で聴いた御仁は自信満々。とにかく、このところ応援に暇なしの格好。編集子はどうだ？つて。仲々そこまでどうも……

◆学報の内容が堅すぎる、もつと具体的という各位から御批判、以後充分注意致します。お氣付の点はその都度どしどし編集部宛へお願ひします。

◆節分の豆まきもすんで寒さも今暫らく全国に感冒の大流行が傳えられて居ります。益々御自愛の程を。(O)

昭和二十八年二月十日印刷
昭和二十八年二月十五日發行

関西大学學報 第二五六號

一年誌代費三〇〇円(送料共)

大坂市大淀區長柄中通二丁目二番地
編集者 松 和 夫

大坂市北區川崎町七
印刷者 西 井 幾 藏

大坂市北區川崎町三三
印刷所 株式 三ニワ印刷所

印刷所 株式 三ニワ印刷所
電話 堀川(七三三)三三三番

電話 堀川(七三三)三三三番
電話 堀川(七三三)三三三番

大坂市大淀區長柄中通二丁目
發行所 関西大学學報局

電話 堀川(七三三)三三三番
電話 堀川(七三三)三三三番

關西大學學生募集

大學院

法学研究科—公法専攻・私法専攻 六〇名
 文学研究科—英文学専攻・国文学専攻・哲学専攻・史学専攻 六〇名
 (修士課程)
 経済学研究科—経済学専攻 五〇名

出願期間 三月一日—四月八日 試験期日 四月十日・十一日

博士課程は修正課程に準ずる

學部

法学部	第一部(昼)	出願期間	第一部(法・文学部) 一年二月二日—三月九日
	第二部(夜)		第二部(法・文学部) 三年三月二日—三月廿四日
文学部	第一部(昼)	試験期日	第一部(法・文・経) 二年二月二日—三月廿三日
	第二部(夜)		第二部(商学部) 三年三月二日—三月廿四日
経済学部	第一部(昼)	試験期日	(日曜、祝日を除き毎日午前十時より午後四時迄)
	第二部(夜)		第一部(法・文学部) 一年三月十四日—三月廿七日
商学部	第一部(昼)		第二部(法・文・経) 一年三月十四日—三月廿七日
	第二部(夜)		第一部(法・文・経) 一年三月十四日—三月廿七日
	第二部(夜)		第二部(商・学・哲) 三年三月廿七日

○第二部第一年次の入學試験に関する全ての事項及び入學後の授業は大阪市内天六學舎で行う

短期大學部 商工経営部 第一部(昼) 二〇〇名
 第二部(夜) 二〇〇名

出願期間 第一、二部とも二月二日—三月廿三日 試験期日 第一、二部とも三月廿四日

第一高等學校 普通科 約三〇〇名(男子のみ)

出願期間 二月二十一日—三月三日
 選衡期日 三月五日—三月六日

◎入學要覽 五十頁(一高は二十頁) 小切手同封の上所在地に申込下さい

大學院・學部

短期大學部
 第一高等學校

大阪府吹田市千里山
 電話吹田123.461

大阪市大淀区长柄中通
 電話堀川1756・2072—3・3332